特集 とうきょうの計量 No.221

都計協

計量記念日の集い開催

11月7日ホテルアジュール竹芝で

（一社）東京都計量協会は、2011年11月7日㈪の15時30分から、ホテルアジュール竹芝で「23年度計量記念日の集い」を開催する。

当日は計量関係功労表彰として、⑴東京都生活文化局局長感謝状伝達（2名）、⑵東京都計量協会会長表彰（7名）の授賞式がおこなわれる。

また、計量管理研究部会が募集した計量管理強調月間「標語」入選作を表彰する。

17時からは恒例の懇親パーティー。祝賀と情報交換などの交流を深める集いになる予定。

【日時】2011年11月7日㈪、15時30分～

【場所】ホテルアジュール竹芝（港区海岸1－11－2、電話03－3437－5566）、16階「曙」

◇懇親パーティー

【開始時間】17時

【場所】同ホテル12階「白鳳の間」

第25回計コン資格取得研修会

33名が受講

（一社）東京都計量協会は10月22日㈯、第25回目の計量器コンサルタント（計コン）資格取得研修会を開催した。

今回の研修会は2010年度事業として3月12日開催を予定していたもの。東日本大震災翌日ということで急遽中止され、今年度開催とした。

3月の参加希望者を多少上回る33名の受講者があり、全員無事受講終了、新計コンが誕生することとなった。

受講者は多くが販売事業に携わるが、メーカーや修理事業者で営業技術担当として仕事をしている受講者もいた。

計コンの役割の重要性は、なんと言っても顧客（計量器の使用者）と直接の接触を持ち、顧客の計量ニーズに的確に応えられる素養があることである。その上で、より広範な計量技術情報を提供できる立場を確立していくことが求められる。

今回の研修を第一歩として、さらに業務や、団体が開催する技術研修会などを利用し、顧客満足度の高い活動ができるよう学習を継続してほしい。

計量管理強調月間 標語決まる

（一社）東京都計量協会計量管理研究部会は、今年度計量管理強調月間に向け会員事業所から恒例の「標語」募集を行い、10月5日の運営会議で5点の入選作を決定した。応募総数548点（6社）の中から、一次審査で10点を選考し、二次審査で5点に絞った。

◇最優秀作品（2点）＝▽「正しい計量　確かな品質　みんなで築こう大きな信頼」南口梨奈（森永乳業㈱東京工場）▽「計量は品質守る第一歩　精度高めて　築く信頼」井上裕治（中外製薬工業㈱浮間工場）

◇佳作（3点）＝▽「基本を守って　しっかり確認　信頼届ける　確かな計量」小池秀美（中外製薬工業㈱浮間工場）▽「未来へ続く確かな信頼　みんなで守ろう　正しい計量」小田木和也（森永乳業㈱大和工場）▽「一人一人の正しい計量　そこから生まれる　安心・安全」栗原圭吾（森永乳業㈱多摩工場）

入選者には、11月7日開催予定の「計量記念日の集い」で賞状と副賞が贈られる。

東西計コン合同研修見学会

大阪、タキノ工業所を見学

東京都計量器コンサルタント協会（都計コン）と大阪計量器連合会は、東西の計量器コンサルタントの交流を目的として毎年合同見学研修会を開催している。

25回目の今年は大阪が開催担当。参加者は20名（東京7名、関西13名）。

今回の見学先は精密板金加工の専門業者である㈱タキノ工業所（代表取締役田中真氏）の草津工場。同社は創業45年。精密板金加工一筋、小規模ながら優良企業である。

2000年、第13回優秀板金製品技能フェアで、厚生労働省職業能力開発局長賞（溶接を主体とする組立品の部）金賞を授賞するなどその技術には定評がある。

まず、田中真社長より会社の概要説明を受け、同席した創業者、田中米造減監査役に創業からの今日までの歩みやトピックを聞いた。驚くのは、要望によって試作から量産まで全工程を引き受けられるという技術と設備のパワーである。また一品手作りの世界から、プログラマブルなタレットパンチャーの早期導入など、勇気のいる事業展開にも感銘を受けた。

工場内見学では、所狭しと並ぶ加工機械に目を奪われた。なんと働いているオペレータの5倍以上の設備配備になっている。顧客ニーズのいかなる仕様にも応えるという意気込みが伝わる光景だった。自動はかりや医療用精密機器、銀行のテラーマシンなど、機械の動的制御部の中枢部品から筐体まで、ユーザーと一体化して設計、製作に当たるという。

工場裏手で社長が「これ見ていってください」と紹介してくれたのは、夜間電力利用の溶接用窒素ガスの製造システム。一晩で翌日使用分のガスを精製できるという。ガスの専門事業者から購入するのが普通だが、配送や発注の手間を考えると、この方が安心だという。こうした考え方一つにもスマートな事業運営がにじみ出ている。

帰りは京都までバス。雨の中ついたのは高台寺。秀吉の正妻であった北の政所の隠居所だった寺。雨の中30分ほど駆け足で見学、その後会席料亭「高台寺茶寮」へ。われわれのようなものはフリでは入れてもらえそうにないが、そこは関西組の顔がしっかり利いていて、楽しく懇談できた。大阪の皆さんありがとうございました。

計量管理強調月間事業

東京都計量検定所は11月を計量管理強調月間とし、都内の適正計量管理事業所および大規模小売店の計量管理担当部署などに取り組みを呼びかけ、計量管理強調運動の推進を図っている。実施結果については、後日報告を依頼している。

また、各区市町村商店街連合会などに、計量記念日を中心とした正量取引強調運動への参加を呼びかけ、適正計量販売の推進を図っている。

部会・団体だより

東京計量士会

◇第1回計量技術研修会

【日時】9月14日、13時30分～17時

【場所】東京都計量検定所B会議室

【内容】⑴計量行政情報

▽夏季商品量目立入検査について＝不適正事業所は5事業所（2・1%）、不適正商品は65点（0・6%）。

▽特定非常災害時における有効期間の延長について＝計量法関連では「特定非常災害の被害者の権利権益の保全等を図るための特別措置に関する法律」に基づいて「平成23年東北地方太平洋沖地震による災害に伴う特定権利権益に係る満了日の延長に関する措置」により、6項目の満了日が8月31日まで延長された。

⑵ISO10012が11年5月にJIS制定

ISO／JISQ10012規格とは計測マネジメントシステムの国際規格であり測定機器の校正・検証及び測定プロセスのマネジメントに関する要求事項について規定し、かつそのための手引きを示したものである。

ISO／JISQ10012規格の要点は不正確な計測によるリスクを回避し、品質を改善することを主目的とする。またそのために、以下の計測マネジメントシステムの運用（PDCA）を規定している。①組織の経営者は、この企画を運用する範囲を明確にし、その範囲内でこの規格を遵守する。②経営者は、計測管理をする機能（計量機能）の管理者を任命し資源を割り当てる。③計量機能の管理者は、顧客が製品に求める要求事項を測定可能な管理数値に置き換え、測定プロセスを設計・構築する。④用途にあった測定機器の管理と適切な測定プロセスの管理（測定機器で管理）を実施する。⑤適切な測定を通して品質及び生産性を向上し顧客満足を図る。

EUは10012を共通規格化。中国は国家規格。日本ではこれから対応（自己宣言か第三者認証制か）。

⑶測定の役割や測定方法の知識・技術に関する中小企業向けのテキストが完成。

講師希望者の募集と測定器の基礎知識と使い方（長さ、質量、温度）測定器の管理。測定のべからず集、失敗例などを中心に講習があった。

具体的な測定器を見ながらの講習でわかりやすかった。今後、日計振を中心に講師を養成し、中小企業向けの講習会が行っていく。

日本硝子計量器工業協同組合

8月▽25日㈭＝第3回水銀委員会。政府間交渉委員会資料（和訳）を参照し、状況を確認。▽31日㈬＝水銀条約化交渉に係る意見書を経産省／産機課へ提出。

9月▽9日㈮＝理事会。

7月理事会議事録の確認。月次会計報告。水銀廃棄について。都計協表彰候補者について。幸楽会についてなど。▽28日㈭＝常会。水銀廃棄処理についてアンケートにより募集。新宿駅西口イベント広場で行う「都民計量のひろば」に、従来通り組合として参加、温度計などの展示と、DVDによる温度計の製作・検査などをPCで放映する。また、温度計などに関する簡単なアンケートにより記念品を配布することとした。JIS規格の温度計B7410、同B7411の改正について規格協会から問い合わせがあり、検討することにした。密度計などのB7525の改正については、近日会議が開催されるため、開催後に回答することにした。

計量記念日事業

都民計量のひろば、11月1日に

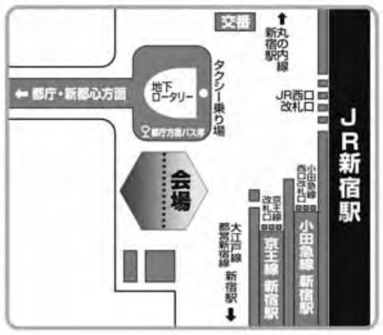
計量資料室の特別公開も

2011年度の計量記念日事業として、「都民計量のひろば」と「計量資料室特別公開」が予定されている。

(1)都民計量のひろば

【日時】11月1日(月)計量記念日、10時30分～16時

【場所】新宿駅西口地下「新宿駅西口広場イベントコーナー」A1・B1（場所は昨年と同様）



新宿西口広場イベントコーナー案内図

【テーマ】メインテーマ「くらしと計量」、サブテーマ「正しくはかって明るい未来」

【行事内容】健康と計量、食品と計量、環境と計量、ガス・水道・電気と計量、計量体験、計量相談の6つのコーナーで実施する。

「健康と計量コーナー」では、健康に関わる血圧、骨強度、体組成などの測定を行い、「食品と計量コーナー」では、身近な食品の糖度、塩分、カロリーなどを測定する。また、「環境と計量コーナー」では、地球温暖化防止のパネルや環境測定装置などを展示するほか、放射線に関するパネルや計測機器類も展示する。「ガス・水道・電気と計量コーナー」では、ガス・水道・電気に関する計量器やパネルの展示と相談を受ける。「計量体験コーナー」では、計量マジックや計量工作など都民が参加できるコーナーを設置する。

「計量相談コーナー」では、計量に関する各種の相談を受ける。

【主催】都民計量のひろば実行委員会

【構成団体】（一社）東京都計量協会、東京都計量器コンサルタント協会、東京計量士会、東京科学機器協会、東京都環境計量協議会、東京都計量証明事業協会、（一社）日本海事検定協会、㈶日本穀物検定協会関東支部、㈳日本計量振興協会、日本硝子計量器工業協同組合、㈱イシダ、㈱タニタ、㈱寺岡精工、㈱松屋、日本ガスメーター工業会関東支部、東京都水道局、日本電気計器検定所、東京都計量検定所

【協賛団体】㈱アタゴ、㈱エー・アンド・デイ

(2)計量資料室特別公開

歴史的な計量器や資料などの展示のほか、計量を体験できるコーナーを設ける。事前申し込みは不要。

【公開日時】11月2日(水)～11月25日(金)、10時～16時（土・日・祝日を除く）

【場所】東京都計量検定所（港区海岸1－7－4）

http://www.tokeikyo.or.jp/

夏のイベント実施

親子はかり教室と計量資料室の公開

東京都計量検定所は、「夏のイベント」として、小学生を対象とした「親子はかり教室」と、「計量資料室の特別公開」を実施し、計量思想の普及啓発の推進を図った。

バネはかり工作

(1)親子はかり教室

8月22日(月)に多摩消費生活センター（立川市）で、25日(木)、26日(金)に東京都計量検定所（港区）で開催した。参加者は延べ39組87人。

計量検定所では、前半、竹芝検査場・環境計量器検査室・天びん室・温度計検定室・計量資料室の5カ所を見学した。後半は、バネはかりの製作を行った。完成したバネはかりが正確に計ることが出来るかどうか、500gや1kgの基準分銅を使って確認した。

多摩消費生活センターでは、前半にバネはかりの製作を行い、後半は「ジュース探検～甘さ調べ～」と題して、様々な飲料や果物の糖度を調べた。

甘さ調べ

参加者アンケートでは、「無響箱に入ったことが楽しかった」「バネはかりを使って家でも色々はかってみたい」「果物の糖度に驚いた」など、様々な感想が寄せられ、全日程を通じて参加者から好評であった。

(2)計量資料室の特別公開

8月1日(月)から8月26日(金)までの土・日を除く延べ20日間、検定所内の計量資料室を公開した。見学者は206人。

歴史的な計量器の展示のほか、計量感覚ゲーム「100gに挑戦」や機械式のはかりを実際に操作できる体験コーナーも併設した。見学者は、普段なかなか見ることの出来ない計量器を前に、職員の説明を熱心に聞き、体験コーナーでも積極的に参加していた。

事業者向け

個人情報保護説明会

東京都は、中小企業や中小規模の非営利団体などの関係者を対象とした「個人情報保護制度」に関する説明会を下記のとおり開催する。

【日時】11月25日(金)、14時～16時30分

【場所】東京都庁第一本庁舎5階、大会議場

【主な内容と講師】

(1)事業者における個人情報対策（個人情報保護法の解説）＝藤原静雄（中央大学法科大学院教授）

(2)東京都個人情報の保護に関する条例における民間部門の個人情報の保護＝東京都担当職員

(3)個人情報保護制度に関する質疑応答＝藤原静雄（中央大学法科大学院教授）

【募集人員】500人（先着順）1事業所あたりの人数が多い場合は、調整の可能性あり。

【申し込み方法】Eメールまたは電話で、下記担当まで、参加者氏名（複数の場合は代表者氏名及び人数）、連絡先を連絡。

【申し込み先】東京都生活文化局広報広聴部情報公開課個人情報係（土居、豊岡）＝電話03－5388－3160、EメールS0000008@section.metro.tokyo.jp

---

シリーズ

にほんの計量、せかいの計量

(2)

長野計器技術顧問　**切田篤**

測るという事

長さを測るときには、物差しを使います。物差しの目盛りと比較して物の長さを測るのです。皆が同じ目盛りの物差しを持っていれば、何処で誰が測っても、同じ長さが測れます。1875年に調印されたメートル条約というのは、世界の何処にいても同じ単位で物が測れるよう、参加国が協力するための取り決めなのです。1875年というと日本では明治8年、実はその頃日本で使われていた長さの単位は「尺」、「メートル法」ならぬ「尺貫法」でした。しかも、国内で統一した単位が制定されていなかったので、地域により「一尺」の長さは少しずつ違っていたようです。

先見の明があった明治政府は同じ年に度量衡取締条例を発布し、国内の単位の統一を図りました。また、メートル条約にも1886（明治19）年に加盟し、世界との協調へ足を踏み出しています。欧米の先進国に早く追いつこうという積極的な一歩ですね。

メートル条約の発足以来、条約に基づいて、フランスのセーブルに国際度量衡局（BIPM）が置かれ、国際度量衡総会（CGPM）の決議に基づく、世界の計量の統一のための取り決めが、国際度量衡委員会（CIPM）により、執行されています。

最初のメートル条約加盟国は17カ国でした。現在の加盟国は55カ国、準加盟国34カ国とされておりますが、条約に従ってCIPMには異なる国から18名の委員を選ぶことになっています。東京帝国大学の教授であった田中館愛橘（たなかだてあいきつ）が、日本から初めてのCIPM委員に選ばれたのは1907（明治40）年の事です。日本の国力が徐々にましてくると共に、文化的にも国際社会に肩をならべる程に認められてきた事が伺えます。最初は世界の計量標準を日本に取り込むための条約加盟でしたが、加盟後20年あまりで、条約に基づいて、世界のための制度を考え、執行する立場に変わってきたといえるでしょう。

目立たないので、あまり知られていませんが、1907年以降、日本からはほぼ継続して国際度量衡委員を輩出してきています。田中館愛橘は、地磁気学者として知られていますが、日本で初のグライダーを飛ばしたり、ローマ字の普及に努めたり、分野に縛られない多才な「科学者」です。

物を測るという事は、単純な科学だけではなく、社会学、哲学、自然科学など、取り巻く環境、社会の全てに目を光らせ、最善の道を求める必要があります。長さ、質量、温度、時間、光、電気、物質、あらゆる計測に係わる最善策が、世界18カ国から選ばれたこの18名の委員に委ねられているのです。

CGPMは条約で少なくとも6年に1回開く事が決められていますが、最近はほぼ4年ごとに開催されています。今年2011年10月には、1875年以来、第24回目となるCGPMが開かれました。丁度この記事が掲載される数日前、フランス、セーブルでSI単位のより合理的な実現に向けて、科学的な議論が進められていました。日本からは、田中館から8人目の田中充CIPM委員、三木幸信NMIJ代表などが参加しています。

実用リンク集
web情報総合サイト
http://www.webdatalink.jp/
「知る・調べる・探す」に役立つリンクが集結！横断的な記事のチェックに。

お知らせとお願い

この「特集・とうきょうの計量」は隔月（偶数月）に発行し、東京都計量協会の会報に代わるものとして全会員に配布しております。会員皆様のご投稿・ご意見・ご質問のほか、各部会等の動きなど是非お寄せ下さるよう、ご支援をお願いいたします。

【編集委員（50音順）】▽大岡紀美子▽金子啓三▽切田篤▽高原隆▽高松宏之▽森川正彦▽山本研一▽横田賢次郎

㈳東京都計量協会☎3434－6591